

令和7年度山口大学入試問題「出題の意図」

試験種別（学部入試：一般選抜 前期日程）

科目（国語）

※注：この出題の意図についての質問・照会には一切回答しません。

[出題の意図]

一（現代文）

- 問一 漢字の読み書きに関する基本的な語彙力をはかる問題を出題した。
- 問二 慣用表現に関する基本的な知識を出題した。慣用表現を文脈に即して理解し、適切に言い換える力をはかった。知識に加え、思考力・表現力も求められる。
- 問三 二つの対立項を、後述の文脈と対応させて理解できるかどうかという論理的な読解力をはかった。単に空欄の前後だけでなく、より広い文脈に即して意味内容を捉える力が求められる。
- 問四 本文中のキーワードがどのように説明されているかを認識し、適切に抜き出してまとめる力をはかった。類似表現が複数あるなかで、キーワードの意味内容を的確に捉え、本文中の言葉を用いながら端的に表現できなければならない。
- 問五 類似した選択肢のなかから、最も適切な意味内容を判別する読解力が求められる。さらに、表現の微妙な違いを読み分け、文脈に照らして論理的一貫性を見出す判断力と分析力をはかるものである。
- 問六 問五と同様、類似した選択肢のなかから、適切な言葉を選ぶ出す能力が必要である。筆者の主張の根幹にかかわる内容に関して、文全体の構造と論旨を理解しているかを問う。ただし、選択肢は文単位であり、単に選択肢の文だけでなく、本文全体に対する文脈理解の深度と読解力の総合的な高さが求められる。
- 問七 本文全体にわたって展開されてきた筆者の主張を、段階的に把握し、その意図を的確に説明・記述する能力をはかった。ここまで様々な言葉で言い換えられてきた筆者の主張を整理し、本質的な論点を取り出したうえで、解答に盛り込むべき内容を余すことなく100字以内で簡潔かつ論理的にまとめる表現力が求められる。

二（古文）

- 問一 基本的な古典文法の知識を確認した。
- 問二 いずれも古典を読解するうえで重要な古語であり、それぞれの言葉の知識を基盤としつつ、文脈を理解することができているかについて確認した。
- 問三 傍線部「かかること」の指示する内容を把握し、的確に説明することができているか

について確認した。

問四 敬語の用法に関する知識を確認した。

問五 傍線部以前の内容を把握し、登場人物の心情を的確に説明することができるかについて確認した。

問六 傍線部中の「かように」が指示する内容を把握し、的確に説明することができるかについて確認した。

問七 出題文の鍵語となる「怪」に対して、語り手の立場がどのようなものであるかを理解できているかについて確認した。

三（漢文）

漢文読解に必要な基本的知識・技能を評価するため、次の各小問を出題した。

問一 漢文において頻出する字の読みを正しく理解しているかを問うた。

問二 返り点や送り仮名などの訓点の用法を正しく理解しているかを問うた。

問三 漢字「過」の意味を、文脈を参照して的確に理解できるかを問うた。

問四 問題文全体の内容を踏まえた上で、的確な現代日本語に訳せているかを問うた。

問五 漢文の文法を正しく理解した上で返り点を施すことができているかを問うた。

問六 問題文全体の内容、特に作者の主張を正しく理解し、それを的確な日本語で説明できているかを問うた。